

# インタープリテーションに携わる人材の育成指標

この資料は、国立公園や遺産地域など、自然や文化的な資源を保全し、「その場所らしさ」を生かした観光や教育に取り組む地域において、来訪者の体験を向上させ、地域の魅力を伝える活動である「インタープリテーション」を担う人材の養成を進めるための指標として検討・作成されました。インタープリテーションに関わる人材を4つの役割に分類し、さらに「知識」、「技能」、「あり方・働く姿勢」の4つのカテゴリで整理しています。

このページ(P2、P3)は一覧表が掲載されており、さらにP3～P7には、より細かい「役割別細目表」をまとめています。

指標の項目には「K1-1」などの記号を振って整理しています。また、「役割別細目表」では、日本インタープリテーション協会が作成している教材に対応するコード番号を示しています。

	1. 接客スタッフ 窓口案内担当者等、観光バスのドライバー等、幅広い観光事業者	2. インタープリター・ガイド ガイドプログラム等の担当者/インタープリター初級	3. ディレクター 現場オペレーター レベル	4. プロデューサー 行政・自然公園施設、観光協会、団体等 マネジメント担当者
<b>知識 (K)</b>	<p>K1-1 インタープリテーションとは何か</p> <p>K1-2 インタープリテーションの役割の理解</p> <p>K1-3 保全や地域振興に関わる考えの理解</p> <p>K1-4 地域情報の把握</p>	<p>K2-1 インタープリテーションの歴史、定義、原則、特徴</p> <p>K2-2 地域や団体、地域の社会教育等におけるインタープリテーションの役割の幅広い理解</p> <p>K2-3 地域や施設の資源に関する理解</p>	<p>K3-1 インタープリテーションの現在や社会的背景に関する深い理解</p> <p>K3-2 より幅広い来訪者対応の想定</p> <p>K3-3 体験学習法等の学習理論の理解と活用</p> <p>K3-4 インタープリテーションの様々なメディアとスタイルについての理解</p>	<p>K4-1 地域の資源の保全や地域振興等に関連する幅広い理解</p> <p>K4-2 人事や労務等、組織運営に関する知識</p> <p>K4-3 インタープリテーションに関する深い理解</p>
<b>技能 (S)</b>	<p>S1-1 拠点施設のカウンターやフロア等において来訪者体験を高める対応ができる</p>	<p>S2-1 代表的な資源について適切なガイド・解説をすることができる</p> <p>S2-2 参加者との共創的なコミュニケーション</p>	<p>S3-1 インタープリテーションに関する調査の技能</p> <p>S3-2 プログラム構成のデザイン</p> <p>S3-3 プログラムの開発</p> <p>S3-4 ファシリテーション</p> <p>S3-5 拠点（ネイチャーセンター等）の運営</p>	<p>S4-1 マーケティングの技術</p> <p>S4-2 インタープリテーション全体計画の策定</p> <p>S4-3 インタープリターの人材育成の計画</p> <p>S4-4 関係者間の衝突回避・問題解決（conflict management）</p> <p>S4-5 評価の設計と実施</p>
<b>あり方 働く姿勢 (C)</b>	<p>C1-1 サービス精神/フレンドリー</p> <p>C1-2 地域が好き</p>	<p>C2-1 資源やインタープリテーション方法の探求</p> <p>C2-2 参加者の問いを歓迎できる/多様な意見を受け止めることができる</p>	<p>C3-1 クライアント、地元行政、地元諸団体、全国ネットワーク組織などと積極的な関係構築や連携</p> <p>C3-2 新しい方法を創ろうとする態度や遊び心</p>	<p>C4-1 他分野や異業種との新しい協働関係の構築ができる</p> <p>C4-2 地域や社会の持続可能性に対する情熱</p> <p>C4-3 未知の分野にチャレンジする姿勢</p>
<p><b>ユニバーサル・コンピテンシー</b></p> <p>C0-1 チーム/組織/社会の中での自分の役割を見つけることができる</p> <p>C0-2 フィードバックを歓迎できる。（成長しようとする意欲がある）</p> <p>C0-3 インタープリテーションで地域や社会をよくできると考えている</p> <p>C0-4 ポジティブである</p> <p>C0-5 自分のバイアスに気づき克服しようとする意思がある</p>				